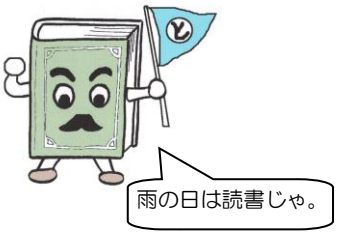


としょえもん

―学校図書館サポートだより　第１号（通巻１３号）

本と私

八王子市教育委員会　学校教育部長　　野村　みゆき

学校図書館整備事業については、今までも『としょえもん』でご紹介がありましたので、本と私という観点から書くことにします。

小学生のころ両親が買ってくれた本は、いわゆる名作選で、誕生日やクリスマスなど特別の日に買ってもらえる分厚いハードカバーの本を、次の本を買ってもらえるまで繰り返し読みました。

記憶に残るのは、何と言ってもバーネットの『秘密の花園』です。おじい様が開けてはいけないと言ったお庭の鍵を見つけ、内緒でお庭に入っていくわくわくした気持ちを今でも覚えています。バラの花が鉄の柵に巻きついた門があり、レースがついたワンピースを着た「私」がお庭に入っていく情景を「思い出す」のです。挿絵があったのかもしれませんが物語を読むと、いつでも物語の主人公になっていました。

自分に子供ができると、夜寝かす時間に絵本や世界の物語を読みました。子どもが喜んだのはスノーマンの絵本でした。これには文章はひとつもなく、私が適当に話を作っていたため、読むたびに微妙に違ってしまうのですが、そこが面白いのか、リクエストが多い本でした。

このように、本を読むと、好奇心と想像力が読後感に厚みをつけてくれます。世界中の国へ行ったり、違う時代へ行ったり、図鑑も何度も読み返すうちに、本の中の虫や花も実際見たことがあるように感じたりしました。

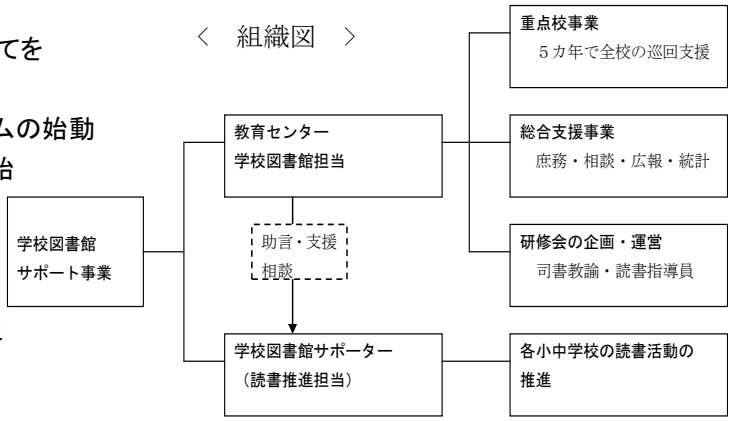
年齢に応じた活字を読み、自分が感じたことを友達と共有できるようになるともっと楽しくなり、高校生の時には作者の意図を巡って激論を交わすこともありました。

八王子の子どもたちが本を通して様々な場面で自由に考えを広げることができるように、今後も学校図書館の整備・充実に努めていきます。

～学校図書館サポート事業の足どり～

■平成22年4月　サポート事業のスタート
■平成23年度　市内小中学校図書館の蔵書すべてをデーターベース化
■平成24年4月　八王子市学校図書館検索システムの始動
■平成24年9月　学校図書館サポーターの派遣開始（17校へ派遣）
■平成24年3月　市内中学校の背ラベル貼付作業の実施
■ 平成25年4月　学校図書館サポーターの2名増員（市内　32校へ派遣拡大）
■平成25年6月　学校図書館活用協議会の設置

＜　組織図　＞



平成２５年度　研修会報告

第1回　司書教諭研修会　　5月20日（月）　教育センター大会議室

「学校図書館の活性化と司書教諭の役割」

大和市教育委員会教育部指導室　　学校図書館スーパーバイザー　藤田　利江　先生

藤田利江先生は、神奈川県の公立小学校で司書教諭として図書館運営・読書指導に当った後、荒川区で学校図書館支援センター推進事業にかかわり、現在は、大和市教育委員会で学校図書館スーパーバイザーとして活躍されています。司書教諭時代は、学校図書館づくりを進めながら図書館を活用した授業の展開に力を注いだり、子どもたちの読書活動の充実に向けてさまざまな実践に取り組みました。また、荒川区では学校の外にいることで見えた学校図書館を巡る課題とその解決に向けて取り組みました。こうした実績に基づいてのお話は具体的で説得力のあるものでした。学校内での図書館運営や読書指導の中心的存在としての司書教諭や図書館担当の先生方へ次のようなお話がありました。

真剣に聞き入る先生方

①「その気になればできることがある」②「先生の図書館を使おうという気持ちが大きい」③「ちょっとしたアイデア、しかけを学校全体でやることが効果的だ」④「職場の意識を変えるような発信をしてほしい」⑤「学校司書や図書ボランティアの皆さんと協働すること」⑥「（私もしてきたが）自分のできることから取り組んでほしい」・・・最後の「**学校図書館を眠らせないように　ー　できることから始めましょう**」ということばが心に残りました。

参加した先生からは、「自分がどのような立場で図書館の仕事を進めていけばよいのか、今自分は何をすればよいのかがわかった気がします」「読書活動を推進していく上で、具体的な例をいくつもご提示いただき、大変参考になりました。できることから少しずつ始めてみようと思います」などの感想が寄せられました。

第1回読書指導員・図書ボランティア研修会　　6月12日（水）　教育センター大会議室

『子どもたちと楽しみ広げるお話や本の世界』

全日本語りネットワーク理事　　佐藤凉子　先生

台風接近の影響か、生憎の雨天にもかかわらず、１３０名を超える学校図書館読書指導員・図書ボランティアの皆さんが参加しました。谷川俊太郎さんの絵本『めのまどあけろ』を読む佐藤凉子先生の張りのある声から始まった講義は、読み手が、楽しいお話・本の世界を子供たちにどう選び、どう渡すかというテーマを基調として、さまざまな視点からの読み聞かせのポイントがちりばめられた内容の濃いものでした。

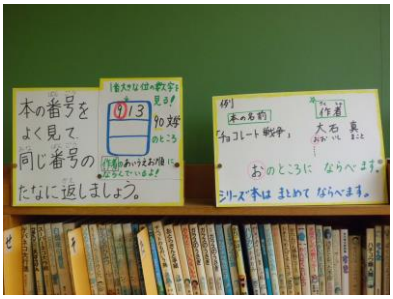
印象に残る言葉を列挙しますと、「子どもたちに声が届くように努力を」「子どもの発達段階を学んで」「本を選ぶということ・・・その力をどう付けるか」「世代を超えて読み継がれてきた本の良さ」「力のある本は読む力を引き出してくれる」「ボランティア活動をする上で気を付けつけること」等々、先生の思いのこもった言葉は到底ここには挙げきれません。また、一冊一冊具体的に本を紹介しながらのお話はとても分かりやすいものでした。

参加された皆さんからは「読み聞かせについてだけでなく、図書ボランティアとしての活動の姿勢、方向性その他参考になるお話で、今後の指針となる」という声がたくさん寄せられました。

参加者も一緒に声を出して詩を楽しみました。

学校図書館活用重点校紹介　～　その 1～

平成２５年度重点校２０校の図書館を順番に紹介していきます。

上川口小学校			左：「本の番号をみて返しましょう」わかりやすい大きな掲示。 右：読み聞かせを中心に活動されているボランティアの皆さん。今年は、図書館の環境整備にもお手伝いをしていただいています。背ラベルの貼替え中。
片倉台小学校			左： 修理講習の様子。本のクリーニングや、ページ破れ、はずれなどの入門編を実習。 右：書架の上にも目立つ色で表示をつくりました。学校図書館全体が明るい雰囲気になっています。
元八王子東小学校			左： 先生方と、図書委員のおすすめの本が掲示してあります。 右： 毎週木曜日の中休み、ボランティアさんによる「読み聞かせ会」。参加した子どもには、手作りのしおりがプレゼントされます。
陵南中学校			左：委員会全員のバラエティに富んだ作品が並びました。手作りの POP が図書館で待っています。 右：図書委員のおすすめの本。人気の「神様のカルテ」は 3 巻揃えて展示。
川口中学校			左：司書教諭と一緒に、はじめての POP カード作りに挑戦するボランティアの皆さん。 右： 新刊に完成した POP カードを添えて、ガラスケースに展示。早速、生徒の視線を集めていました。

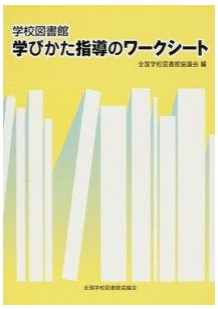
昨年 9 月より始まった読書推進サポーター派遣事業。この 4 月から 2 名が新たに加わり、8 名の司書が 32 校の学校現場で活躍しています。月に一回の連絡会を持ち、情報の共有やスキルアップのために研修を行い、5、6 月は「夏休みのおすすめ本リスト」作りに取り組んでいます。出来上がったリストは、7 月に市内の小中学校へ配布する予定です。学校図書館担当は、現場で頑張るサポーターへの支援もしています。新しく始まった派遣事業へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本が好き！ このコーナーでは毎回本の紹介をしていきます。研修会で講師の先生から紹介があった本と、学校図書館サポーター（読書推進担当）からのおすすめ本です。ぜひ読んでみてくださいね。

表紙の利用は出版社の許諾済です

学びかた指導とは、情報・メディアをよりよく活用できるようにするための指導です。この本には、図鑑や事典そしてインターネットの利用の仕方や記録のとり方、プレゼンテーションの方法まで、ワークシートで手軽に学べるよう編集されています。小・中学生を対象とした調べ学習の入門編として学校で活用してほしい本です。

『学校図書館　学びかた指導のワークシート』
全国学校図書館協議会編



『あめがふるひに…』
イ・ヘリ文／絵、ピョン・キジャ訳、くもん出版

読書指導員研修会で佐藤涼子さんから紹介された絵本。グレーを基調とした雨の描写が、この季節にピッタリです。表紙では傘の下に隠れているパパと動物たちがいったいどうなるのか…それは読んでのお楽しみ！読み聞かせの日に雨が降っていたら、そっとバッグに忍ばせて持っていきたい本です。

学校図書館の窓から～

「走れ！マスワラ」

作　グザヴィエ＝ローラン・プティ

訳　浜辺貴絵　ＰＨＰ研究所

この本は４年生の国語単元「読書発表会をしよう」の授業時にブックトークで取り上げました。昨年度の「課題図書」ですが、知っている子どもはごく少数でした。

走るのが大好きな母マスワラと、心臓に重い障害を持つ娘のシサンダ。娘の心臓手術費のためにマスワラはマラソンレースへの出場を決意します。

アフリカの大地を裸足で走るマスワラと彼女を見守る周囲の人々・・・。果たしてその結果は？ラストには思いがけない奇跡が起こります。

「読む」ことに夢中になれるおすすめの１冊です。

（N：第二小・第七小・第十小・横川中担当）

図書館へGO！《オリエンテーション》

◆方向を指し示すもの

英語のオリエント（orient）という言葉には、特定の目的のために訓練するとか新たな環境になじませるという語感が含まれています。ですから図書館利用のオリエンテーションというときは、単に図書館の使い方を手ほどきするだけでなく、学校図書館をフルに活用して子どもたちの学びや成長を方向付けるという積極的な面があることを忘れてはならないと思います。

オリエンテーション風景

◆何が期待できるか

今年から 32 校に派遣されている学校図書館サポーターの皆さんから、学校では先生からオリエンテーションを依頼されることが多いと聞きます。学校教育全体で情報活用能力の育成が要請されていることも背景にあると思います。児童・生徒にとって学校図書館がもっともっと身近になるチャンスであるとともに、先生たちにとっても「調べ学習」によって子どもたちの学びの質を高めるきっかけとなることでしょう。

◆時を選ばず

学校によって差はありますが、毎年 30～40 万円の予算を投入する学校図書館を埋もれた宝の山にしておくのはもったいないことです。オリエンテーションというと年度の初めという固定観念があるように感じますが、図書館活用への方向付けはいつでも可能のはずです。特に図書館のレイアウト変更などの機会をうまくとらえたいものです。「思い立ったが吉日」ですね。

平成２５年度第１号
６月２８日発行
（通巻１３号）

八王子市教育センター　　学校図書館担当
連絡先　　電　話　　042-664-1135　／　FAX　042-662-2988
住　所　　八王子市散田町 2-37-1
教育センター　e-mail：　b300700@city.hachioji.tokyo.jp